

新年



あけまして
おめでとございます



湘南鎌倉総合病院 [院長代行]

小林修三

SHUZO KOBAYASHI

わたくしども職員を代表しまして令和2年の幕開けのご挨拶をさせていただきます。年が変わっても「生命だけは平等だ」の価値は全世界に通じます。職員一同、いつでも・どこでも・誰もが自由に医療を受ける権利を尊重し職員全員日々精進しています。この瞬間にも新たな命が誕生し、また残念ながら天に召された方、あるいは大変な治療と懸命に戦っておられる方など、許可病床 658 を持つここ湘南鎌倉総合病院という大きな舞台上、わたくしども約 1,500 名の職員全員が尊厳あるお一人お一人の命をしっかりとお預かりしています。

同時にこの瞬間、救命救急センターには救急車が来院しています。現在その数一日およそ 40 台、日本一の規模で救急を断らない医療を実践しています。加えて当院では 10 年以上前から国際貢献も行ってきました。このお正月をアフリカ医療支援のため遠く離れたタンザニアの奥地で過ごすスタッフもおります。当院創立から 32 年目に入っても我々の理念は変わりません。

日々、職員に伝えていることは

For the patient

という合言葉です。どんな困難な場合でもこの合言葉で解決します。「この病院に来てよかった。このスタッフに会えてよかったね」そう言われる優しい病院作りを目指しています。「弱者を置き去りにせず、安全第一に質を向上し先進医療を目指す」という、わたくしどもの理念は「病院は地域の生活と文化の中心」の合言葉とともに病院経営に生かされています。

2018 年 7 月には鎌倉市医師会にも加盟し、医師会長並びに市長から市の基幹病院としての位置付けのお言葉も頂きました。責任ある地域医療を医師会の先生方とともに守って参ります。



第 2 回病院祭での
松尾崇鎌倉市長との特別対談

本年 10 月には先端医療センター棟が完成し、翌年には外傷センター棟も完成します。先端医療センター棟では死因の第一位を占める悪性腫瘍に対してがん相談支援センターなど緩和ケアの充実とともに先進医療である陽子線や BNCT (ホウ素中性子捕捉療法)、あるいは我が国を代表するような再生医療の実践推進を

その基礎的研究とともに目指します。また、神奈川県が進める未病対策を含めた人間ドックセンターも新設され、受診される皆様のアメニティーも充実させるなど、プレジジョンメディスンを行う高度急性期総合病院となります。

病院に来られる方々は不安でいっぱいです。常に皆様の視線で病院運営を行います。またその方々を診る職員も緊張と集中の連続です。こうしたことを含め、それぞれのレストランを大きく明るいスペースで準備しています。全職員の物心両面の幸せは患者さんを幸せにします。いつも笑顔で迎えることができるよう医師およそ 220 名を含む全職種が一体となって多職種で医療を行い、一人一人が日毎に皆様への貢献を自覚し、確実に命をバトンタッチするプロ集団の医療経営を目指していきます。徳洲会理事長の目指す、やがてレジェンダリーホスピタル (伝説の病院) とされるそんな病院の新たな年の幕開けです。

最後に皆様のご多幸お祈りして新年の挨拶の締めくくりとさせていただきます。



タンザニアでの初の腎移植成功の瞬間